

令和3年(2021)1月 『年の終わりのしめ飾りづくり』

一宮ネイチャークラブでは、毎年師走の初めに、その年の稲わらでしめ飾りを作っています。今年は10名ほどの子ども達と10数名の大人が参加しました。

しめ飾りにはそれぞれ地域独特の形がありますが、上総地方で多く見られる、月の数だけ藁（わら）を垂らす形の飾りを作りました。

田植えから始まり、稲刈りをして米を収穫し、残った藁はしめ縄やしめ飾りとして使う。自然の循環の中で農業が成り立って来た事を、子ども達に体験を通して感じ取ってもらいたいものです。

神社のしめ縄は、神を迎える、あるいは神聖な場との境を示すもので、その年の稲わらを使って毎年作り直されています。お正月、神社に行くことがあれば、どんなしめ縄が飾られているか見てください。

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和3年(2021)2月 『冬の松子』

毎年2月の初め頃にアカガエルたちの大合唱の時期を迎えます。冬眠から一時目覚めたカエルたちが交尾して産卵する合図です。暖くなるまでしばらくの間、松子の田んぼではこの卵塊がたくさん見られます。一つが数百個の卵の塊ですが、昨年はこの卵塊が500以上確認できました。

草刈りした後のアシ田には、写真のような面白い形の枯れ草が見られます。タコノアシという植物の実の部分が枯れたものです。近年は少なくなってきているようです。

2月の間はまだまだ寒く、田んぼにも氷が張り、地面には霜が降りています。日の当たらないところでは、昼近くでも落ち葉の上などに、面白い形の霜や氷の小さな結晶を観察することができます。

まだ春の便りには遠いですが、足元の自然の造形や生き物たちを観察してみませんか。

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



△タコノアシ



△落ち葉の間の霜

令和3年(2021)3月 『冬の風物詩』

冬枯れの里からでヒッ、ヒッ、ヒッと澄んだ声が聞こえてきます。ジョウビタキの鳴き声です。オスは黒、頭が銀白色、胸と腹がオレンジ色でカラフルな姿。尾をふるわせ、お辞儀する仕草が可愛らしい。スズメより小型のツグミの仲間。翼の白い模様のワンポイントが目立ちます。冬鳥で晩秋から初冬にかけて日本に渡ってきます。春になると再び中国、ロシア極東方面に帰って行きます。コロナ禍でも自然の営みは変わりませんが、今春はいつもと違って見えます。

<問合せ先>

吉田 42-6784 小池 42-8142

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和3年(2021)4月

『「松子の里」で健康的な汗を流しませんか?』

一宮ネイチャークラブは、松子地区の田んぼで、古代米の緑米を育てながら、ホタルやメダカなどの生物を守っています。松子地区は、いこいの森への道をたどり、洞庭湖をすぎてすぐです。新しくできた「松子の里」の看板が目印です。4月は田ごさえ、5月に田植えをして、10月に稲刈り、11月に脱穀をする予定です。6月にはホタル観察、7月には水生生物観察、12月にはしめ飾りづくりを行います。お一人でも家族でも、どなたでも参加できますので、気軽にご参加ください。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和3年(2021)5月『生物季節観測』

昨年、気象庁は生物季節観測の9割を廃止することを発表しました。サクラの開花などは続けますが、ウグイスの初鳴きなどは中止の対象となるそうです。一宮町の松子地区では、昨年は1月末にアカガエルやサンショウウオの産卵が見られましたが、今年は2月4日となり少し遅れ気味でした。ところが春になると、例年より1週間早く、ヤマザクラが8分咲きとなりました。玉前神社では、今までで最も早い3月19日に桜開花宣言が行われました。生物季節観測は、気候変動による生物への影響を知る上でも重要です。一宮ネイチャークラブでは、これからも生物の調査を続けてゆきます。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和3年(2021)7月『川に住む生き物たち』

松子の里では、カエルやオオヨシキリの賑やかな声が聞かれ、メダカが住む田んぼでは、古代米の緑米が青々と成長しています。洞庭湖周辺の遊歩道から憩いの森にかけて、シモツケ、オカトラノオ、ウツボグサなどをはじめ夏を彩る草花も見られます。

松子川の川底を網ですくう生物調べをすると、メダカ、ドジョウ、ヨシノボリ、カワニナ、シジミ、ヤゴなどさまざまな生き物が暮らしていることがわかります。

ヨシノボリは、川や湖に生息するハゼの仲間で、吸盤のような腹びれで川底の石や護岸にはりつき、流れをさかのぼることができます。松子川では、5～6 cmほどの大きさのトウヨシノボリが、川底の石に付いた藻類や水生昆虫などを食べています。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和3年(2021)8月『松子川のホタル』

大欠堰から洞庭湖をつなぐ松子川では、毎年5月末から7月にゲンジボタルとヘイケボタルがみられます。今年はゲンジボタルの出現が例年より一週間早く、6月上旬には200頭以上のホタルの乱舞が見られました。ゲンジボタルは6月末で終わりますが、ヘイケボタルは7月まで見られました。松子川の上を優雅に舞うゲンジボタル、田んぼの畔でキラキラと光るヘイケボタルのいずれも魅力があります。二種類のホタルが見られる松子の環境をこれからも守り続けて行きたいものです。

しかし、2年後には上流の大欠堰で防災ため池改修工事が行われ、堰にたまった土砂が流れてホタルの幼虫や餌のカワニナが住めなくなってしまう恐れがあるので、影響を最小化する対策を検討しています。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和3年(2021)9月『カワニナどこだ??』

6月、松子川周辺では、羽化したゲンジボタルの成虫が、繁殖のため、発光して乱舞します。その、ゲンジボタルの幼虫は、成虫になるまでの間に30匹以上ものカワニナを食べます。松子川には、たくさんのゲンジボタルの幼虫が、成虫になれるだけの数のカワニナが生息しているのです。カワニナは、淡水生の巻貝で、川底に生育する、“珪藻”という微小な藻類を食します。川の中をのぞくと、数多くのカワニナが川底の珪藻を食べている姿が見られます。写真では、川底についた筋が、カワニナが珪藻を食べた痕跡、無数にみられる折れたシャープペンの芯のようなものは、カワニナの糞です。

水の流れが滞ることがなく、適度に明るい、浅い川の川底は、多様な生物を育むことができる、貴重で楽しい環境です。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和3年(2021)10月『松子の田んぼとメダカ』

9月初め、松子の田んぼでは緑米(古代米)の花が満開でした。イネの花には花弁が無いので目立ちませんが、近づいてみると黄色いおしべが見られます。緑米はコシヒカリなどに比べて2ヶ月ほど開花が遅く、毎年10月末から11月初めに稲刈りをしています。

松子の田んぼでは、たくさんのメダカが初夏から秋まで繁殖し、次の年を迎えます。冬の間、水を抜かずに浅い池のような環境を保っているからです。

松子の田んぼは松子川、洞庭湖を通じて一宮川の南に広がる水田とつながっています。皆さんの近くの田んぼの水路にいるのは、松子のメダカの子供たちかもしれません。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和3年(2021)11月『里山に侵入する外来のチョウ』

古代米が出穂し、稲刈りを待つ秋の里山。外来種の「アカボシゴマダラ」が熟した柿の実に群れていました。昨年まではまれに目撃する程度でしたが、今年は数が増えています。他のチョウのように訪花せず、日陰で樹液等を吸っているため、派手な姿のわりに見過ごすことが多いチョウです。



大きさは約5cmの大型種。中国原産で繁殖力が強く分布を急速に広げています。在来の希少種オオムラサキ、ゴマタラチョウ等と生態が競合するのでこれらのチョウの生存をおびやかす勢いです。現在は環境省により危険度の高い「特定外来生物」に指定され捕獲、飼育、販売が禁止されています。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！

令和3年(2021)12月『古代米の稲刈り』

10月最後の土曜日、ネイチャークラブでは、松子川周辺で育てている古代米、“緑米”の稲刈りを行いました。下は2歳児から、上は80代の方まで、総勢70名ほどが、作業を行い、手作業ながら、4枚の田んぼを、4時間ほどで刈り終わりました。おだかけに着々と干されていく“緑米”の真っ黒な稲穂が、真っ青な秋晴れの空に、美しく映えていました。子供たちも、作業を手伝っては、自由に田んぼや川を駆け回り、楽しい時間を過ごした様子。古代の人たちも、きっと、こんな風に力を合わせて収穫作業をし、その土地の自然を慈しみ、暮らしていたのでは・・・と、古代にも想いを馳せられる、何だか素敵な時間でした。

1週間後の11月最初の土曜日に、脱穀作業。今年は、粳米で270kgの収穫でした。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



